

2024年 第1回 VLBI 懇談会役員会 議事録

作成: 2024年1月12日(金) 佐野栄俊 (岐阜大学)

本議事録は、2024年1月12日(金)の2024年第1回 VLBI 懇談会役員会の開催前に配布した会議資料に、議論の内容を赤字で追記し、議事録として確定したものです。

1. 本会の開催日時 2024年1月12日(金) 16:00-

2. 開催形式 Zoom によるオンライン開催

3. 参加者確認

出席: 小林, 佐野, 赤堀, 藤澤, 青山, 米倉, 中川, 三澤, 新沼, 寺家, 本田, 土居, 大木, 小山

欠席: 今井, 岳藤, 関戸, 小川

4. 議題

(ア) 国立天文台台外委員候補者推薦について

国立天文台運営会議の次期台外委員について、国立天文台長より候補者推薦依頼があった(2024年1月31日締め切り)。次期台外委員の任期は2024年4月1日から2026年3月31日の2年間。運営会議は研究教育職員の人事等、国立天文台の運営に関する重要事項について、国立天文台長の諮問に応じることなどを役割とする。

VLBI 懇談会会員へ、2023年12月31日(日)18時(JST)を締め切りとして推薦者を募った。教授職(教授職相当)以上を被推薦者とし、ジェンダーバランスも考慮する旨、並びに複数名の推薦も可であることを伝えた。参考情報として、国立天文台運営会議委員 第10期(任期:2022年4月1日~2024年3月31日)のメンバー (<https://www.nao.ac.jp/about-naoj/organization/info.html>) と、以前のメンバー構成(運営会議議事録, <https://www.nao.ac.jp/recommend/governing-board/>) についてのアナウンスも実施した。

結果として、次項、4名の会員の方から4名の推薦いただいた。

萩原喜昭さんより

【被推薦者】

今井裕（鹿児島大学，教授）

久野成夫（筑波大学，教授）

【推薦理由】

今井さんの推薦理由

- ・ 野辺山 45m 望遠鏡の VLBI バックエンド開発では科研費を継続的に獲得して、野辺山のスタッフらと協調して作業を進めており、共同利用機関として天文台が改善すべき点や斟酌すべき内情を知っていると思われる。
- ・ VLBI の研究を通じて、国際的な天文学コミュニティとの積極的なコラボレーションを進めてきた。その結果、アジアを始めとして国内外の研究者とのネットワークを広げ、国立天文台と海外コミュニティとの連携を強化しているといえる。
- ・ 鹿児島大学での教育・指導にも熱心に取り組んでおり、若手研究者の育成にも貢献してきた。これは将来の天文学者の育成にも寄与するものであり、共同利用機関の国立天文台が果たすべき役割としても注目されるべき実績である。この教育実績は、天文台の運営においても生かされるべきである。
- ・ 今井裕さんの専門知識、天文台とのコラボレーションの経験、海外グループとの豊富な研究実績は、国立天文台の運営委員会において特に人事選考におきまして、今後非常に有益であると考えています。また、大学研究者の要望を広く代弁することも期待されます。

久野さんの推薦理由

- ・ 野辺山宇宙電波観測所の所長として天文台に長く勤め、転出後は大学の研究者として、学生に教育・指導に熱心に取り組んでおり、若手研究者の育成にも貢献している。教育・研究の両面において天文台の運営にアドバイス出来る人材であるといえる。
- ・ 野辺山 45m 鏡の科学成果導出に大きな成果をあげた研究者の 1 人である。天文台の内情を知る研究者としての観点から、天文台の運営や人事に対して適切な意見を進言できる人材であると確信している。

小林秀行さんより

【被推薦者】

新沼浩太郎（山口大学，教授）

米倉覚則（茨城大学，教授）

【推薦理由】

新沼さんの推薦理由

山口大で活発に活動されており、年齢も教授層の中では若手であるため。

米倉さんの推薦理由

第1期を務めておられ、活発な発言も目立つため。

米倉覚則さんより

【被推薦者】

今井裕（鹿児島大学，教授）

新沼浩太郎（山口大学，教授）

【推薦理由】

- ・ 前期の藤澤さん、今期の米倉よりも若手であること。
- ・ VLBI の将来計画の議論に深く関わっていること。
- ・ （地方大学の教授であること）。

藤澤健太さんより

【被推薦者】

米倉覚則（茨城大学，教授）

【推薦理由】

- ・ 現在、運営会議の委員を務められている。運営会議委員は、通常は2期連続する傾向があり、米倉さんは1期目であるので、もう1期、担当していただくのは適切である。
- ・ 学識と経験が豊かな教授であり、国立天文台の運営会議委員として適任である。
- ・ VLBI の研究グループ全体として推薦するのにふさわしい人物である。

→ 役員内の賛成多数で、今井裕（鹿児島大学，教授）、久野成夫（筑波大学，教授）、新沼浩太郎（山口大学，教授）、米倉覚則（茨城大学，教授）の4名を、国立天文台台外委員候補者推薦として、VLBI 懇談会からの推薦候補者とすることに決まった。このあとは、事務局長(佐野)から4名の被推薦候補者に連絡してこの旨をお伝えして了承が得られた後に、小林会長から国立天文台の担当者に連絡していただく。

(イ) 解析教材 WG の発足について (赤堀さん)

別紙：解析教材 WG の発足について.pdf を参照ください。

Q：スコープをどこに置くのか (天文データ解析のみ？ 測地は含めない?) [小林]

A：VLBI のデータ解析なので測地データも含める [赤堀]

Q：言語は日本語にするか [小林]

A：第一段階は特に気にせずに進める。とはいえ想定される読者は学生なので、日本語が良さそう。解析の手順や Tips など含まれていると良い。天文学基礎については教科書 WG にまわす [赤堀]

Q：学生の状況に鑑みて、日本語にしてもらえると良いのでは [藤沢]

A：最終的には日本語でまとめます [赤堀]

Q：学生の状況に鑑みて、日本語にしてもらえると良いのでは [藤沢]

A：最終的には日本語でまとめます [赤堀]

Q：WG のメンバー構成のアイデアなどありますか [佐野]

A：議論や日程調整などの観点から、5-10 名程度のメンバーで行う予定。個人的には 10 名はやや多いと感じている [赤堀]

Q：VLBI 懇談会 会則の第十条の 1 によると、総会で承認されて初めて WG を置くことができる [米倉]

A：役員の中で非公式なタスクフォースとして進め、最終的に次回の総会で WG 承認決議を取るのが良いのでは [小林]

→ 役員内の賛成多数で、赤堀さんを「解析教材タスクフォース」の取りまとめ役として進めることが決まった。

5. 報告

特になし

6. その他

(ア) コミュニティーツールについて [新沼]

VLBI 懇談会におけるコミュニティツールを求める声が、主に学生会員から挙がっている。現在は Slack が運用されているが、無料版かつ期限付きである。設定には予算も関連する [新沼]

Slack (有料/高額) や Discord (無料) といった選択肢が提案されている (学生会員からは、返信が来た 5 名全員 Discord との回答を得ている) [大木]

Slack は高額になるとみられるので、財政面も考えて検討いただきたい [米倉]

→ 大木さんに (修士論文が落ち着いた後に) 学生会員の意見を取りまとめてもらい、一般会員については新沼さんに意見聴取をお願いすることになった。そのほか役員の皆さんからも、次回の役員会の際までに、意見などをいただきたい。

(イ) VLBI 懇談会の入会について [中川]

学生から入会連絡がきていたので事務局長に対応をお願いしたい [中川]

中川さんに事務局メールのパスワードを伺い佐野が対応する [佐野]

(ウ) 集録の紙版の必要性について [小林]

これまでの総会でも何度か話題になっているが、次回の総会までに、継続かやめるかについて、役員で検討する必要があるのでは。会費のあり方・使い道とも密接に関係している。現在は会費の大半 (10 万円) を集録作成費として使用している [小林]

→ 次回の役員会時に、集録の紙版の継続有無について、メリット・デメリットなどを話し合うことで合意。ご意見など事務局長まで送っていただき、佐野が資料として取りまとめる。

以上